

国語 一―一	第三学年及び第四学年の内容 ことわざ	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次のことわざの意味としてふさわしいものをあとのアからオの中から選び、（ ）の中に書きましょう。

① 急がば回れ (**ア**)

② 石の上にも三年 (**ウ**)

③ 住めば都 (**オ**)

④ 負けるが勝ち (**イ**)

⑤ 善は急げ (**エ**)

ア 急ぐときには、遠くても安全な道を行く方が、危険な近道をするよりも結局は早く目的地に着くというたとえ。

イ 相手に勝ちをゆずるほうが、最後は自分の得になることのたとえ。

ウ がまん強く努力すれば、必ず成功するというたとえ。

エ よいと思ったことは、ためらわないですぐに行ったほうが良いというたとえ。

オ 住みなれば、どんな場所であつてもそれなりに住みよくなつてくるというたとえ。

国語 二一		第三学年及び第四学年の内容 慣用句		名前		年	組	番	取り組んだ日 月	日
----------	--	----------------------	--	----	--	---	---	---	-------------	---

次の に当てはまる言葉をあとの から選び、書きましよう。また、
慣用句の意味をあとのAからDの中から選び、
に書きましよう。

① 母はお祝いの日の料理では、いつも以上に、
(A) をふるう。

② 野球場にいる観客は、彼の見事な技に
(D) をまいた。

③ バスケットボール大会の本番を前にして、
(C) が騒ぐ。

④ 何度も をはこんで、ようやく撮影することができた。
(B)

血	足	うで	舌
---	---	----	---

- A 自分のうで前・技能を存分に人に見せる。
B あることのために、わざわざ出向く。
C 気持ちが高ぶって、じっとしていらなくなる。
D あまりにもすぐれていて、ひどくおどろく。

国語 三十一		第三学年及び第四学年の内容 故事成語		名前 年 組 番		とく り 組 んだ 日 月 日
-----------	--	-----------------------	--	-------------------	--	-----------------------------------

次の文の――の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、（ ）の中に書きましょう。

① 背水の陣で試合にのぞむ。
はいすい じん しあい （ア）

② この賞は、作家になるための登竜門だ。
しょう しょう とくりゅうもん （ウ）

③ 彼はつねに和して同ぜずだった。
かれ わ （イ）

ア 失敗すれば、次はないことをかくごして、全力をつくして、仕事などにあたること。
しっぱい つぎ しごと

イ 人と協力して、調和を保って行動するが、相手の機嫌をとるために、したがうようなことはしないこと。
きょうりよく ちょうわ たも こうどう あいて きげん

ウ 出世をするための関門のこと。
しゅつせ かんもん

国語 四―一	第三学年及び第四学年の内容 語い①	名前	年	組	番	取り組んだ日 月 日
-----------	----------------------	----	---	---	---	---------------

次の文の（ ）にあてはまる言葉を、あとの
箱から
選び、書きましょう。

- ① かれの一言に（元気づけられる）。
- ② （意外）とむずかしい問題だった。
- ③ 古いアルバムを見て、（なつかしい）顔を見つけた。
- ④ （さわやか）な五月の風。
- ⑤ オニから（ひっし）ににげまわる。

ひっし	意外	なつかしい	元気づけられる	さわやか
-----	----	-------	---------	------

国語 五―一	第三学年及び第四学年の内容 語い②	名前	年	組	番	とく 取り組んだ日 月	日
-----------	----------------------	----	---	---	---	-------------------	---

次の文の _____ の言葉の意味
を選び、線で結びましょう。

① 話を聞きながらあいづちをうつ。

相手をも自分よりも下にみる。

② 草原であおむけに寝た。

相手の話に調子を合わせ、うなづく。

③ 考えに考えたあげく、行くのをやめた。

ずうずうしい。

④ あつかましいにもほどがある。

上を向いた状態。

⑤ あなどると大変なことになる。

結局。

国語 六一一	第三学年及び第四学年の内容 漢字と仮名	名前	年 組 番	とく 取り組んだ日 月 日
-----------	------------------------	----	-------	---------------------

1 漢字を使うことで読みやすい文になります。次の文を、あとの□の中の漢字を使って書き直しましょう。

① ははは、ははじょうぶです。

母は、歯はじょうぶです。

② きしやは、きしやできた。

記者は、汽車で来た。

③ しやないでしやないのひとにこえをかけた。

車内で社内の人に声をかけた。

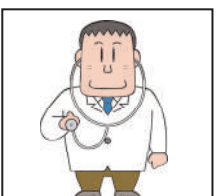
④ にわにはにわにわとりがいる。

庭には二羽にわとりがいる。

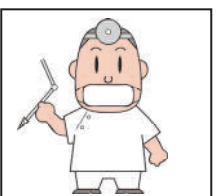
汽車、社内、記者、母、声、
歯、人、車内、庭、二羽

2 次の文を絵にあうように、あとの□の中の漢字を使って書き直しましょう。

① わたしはいしやになりたい。



わたしは、医者になり
たい。



わたし、歯医者になり
たい。

② みんなはしっている。



みんな、走っている。



みんなは、知っている。

歯医者、医者、
知って、走って、

国語 七一	第三学年及び第四学年の内容 送りがな・活用	名前	年	組	番	とく 組 んだ 日 月 日
----------	--------------------------	----	---	---	---	------------------------------

「泳ぐ」という動きを表す言葉の送りがなを次の文の（ ）に
合うように直し、書きましょう。

① 犬が（泳ぐ）。

② 流れの速い川は、あぶないので決して（泳が）ないこと。

③ 選手になりたいので、最後まで絶対に（泳ぎ）ます。

④ （泳ぐ）ときは、ゴーグルをしている。

⑤ あと二十五メートル（泳げ）ば、練習が終わる。

⑥ 「最後までがんばって（泳げ）」と父にはげまされた。

国語 八―一		第三学年及び第四学年の内容 改行			名前		年	組	番	とく 組んだ日		月	日
-----------	--	---------------------	--	--	----	--	---	---	---	------------	--	---	---

話の内容が変わるときや、「しかし」「や」「さて」「など、文と文をつなぐ言葉を使うときは、行を変え、段落を分けて書きます。

ひとみきぬえ

たいしやう

にかいどうたいそうじゆく

人見絹枝は、大正十四（一九二五）年に二階堂体操塾（今の日本女子

そつぎやう

体育大学）を十八さいで卒業したあとも、新聞記者として働きながら、

りくじやうきやう

れんしゆう

陸上競ぎの練習にはげんでいました。そして、さまざまな競ぎ会に出

ろく のこ

場し、すばらしい記録を残していきました。しかし、仕事をしながらの

練習は楽なものではありませんでした。仕事の合間に、二時間ほど練習

して、また仕事にもどります。ときには、夜中の一時まで仕事に取り組

むこともあり、つかれがたまつて、練習が思うように進まないこともあ

りました。

国語 九—一		第三学年及び第四学年の内容 語い③		名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日							

次の に当てはまる言葉をあとの から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、（ ）に書きましよう。

① これからは 組織的 な取り組みが評価される。（ B ）

② 正しく判断するために、 客観的 な意見が聞きたい。（ D ）

③ 今年の大江戸えど小学校のバスケットチームは、他の小学校に比べて あつとう的 に強い。（ A ）

④ 割れたガラス窓をダンボールでふさいでも 一時的 な解決にし かいけつ かすぎない。（ C ）

一時的 てき	あつとう的 てき	組織的 しきてき	客観的 きやつかんてき
-----------------------	-------------------------	-------------------------	----------------------------

A 他とはかけはなれてすぐれていること。

B 個々のものが、一定のきまりなどにしたがっているようす。

C その場かぎりで長続きしないようす。

D 個人の考えからはなれ、すべての場合にあってはまる考えをもっていること。

国語 十一	第三学年及び第四学年の内容 言葉のなかま分け	名前	年	組	番
----------	---------------------------	----	---	---	---

とく 取り組んだ日	月	日
--------------	---	---

次の言葉を「物の名前を表す語句」「動きを表す語句」「様子を表す語句」に分けましょう。

自転車 ^{てん}	歩く	つくえ	歌う
くるしい	えん筆 ^{ぴつ}	暑い ^{あつ}	
元気だ	便利だ ^{べんり}	走る	
泳ぐ ^{およ}	高学年	楽しい	
静かだ ^{しず}	トマト	笑う ^{わら}	
投げる ^な	バスケット		

物の名前を表す語句

自転車	つくえ	えん筆
高学年	トマト	バスケット

動きを表す語句

歩く	歌う	走る
泳ぐ	笑う	投げる

様子を表す語句

くるしい	暑い	元気だ
便利だ	楽しい	静かだ

国語 十一―一	第三学年及び第四学年の内容 主語、述語、修飾語	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の主語、述語、修飾語の部分にそれぞれ線を引き、主語の線の横には「主」、述語の線の横には「述」、修飾語の線の横には「修」を書き込みましょう。

① わたしは、校庭で遊びました。
主 修 述

② 鉛筆が、机の上にある。
主 修 述

③ ビスケツトもおいしいよ。
修 主 修 述

④ 高学年の教室は、とてもしずかだ。
主 修 述

⑤ オリンピック、東京に決定。

国語 十二—一	第三学年及び第四学年の内容 辞書 答え	名前	年 組 番	とく 取り組んだ日 月 日
------------	------------------------	----	-------	---------------------

① 一次の言葉が辞書に出てくる 二次の文中の 言葉が辞書
じゆんばん 順番を（ ）の中に書きまし
よう。

① 算数（ 2 ）

国語（ 1 ）

理科（ 3 ）

② 地面（ 2 ）

寺院（ 1 ）

人工（ 3 ）

③ 白夜（ 2 ）

冷や汗（ 1 ）

百貨店（ 3 ）

④ クリアー（ 1 ）

くりあげる（ 2 ）

クリーニング（ 3 ）

で調べると、①～③の意味が書か
れていました。この文中の ことば
言葉の意味として適切なものを
えら 選び、番号をマル（○）で囲みま
しょう。

責任をもつてやりぬくと決め
た仕事なので、最後までふんばる。

辞書に書かれていた意味

① 足に力を入れてふみこたえる。

② 他人の言うことにくつしたり

しないで、どこまでも自分の考え
を主張する。

③ 気力を出してたえる。こらえる。

国語 十三—一	第二学年及び第四学年 修飾	名前	年 組 番	とく 取り組んだ日 月 日
------------	------------------	----	-------	---------------------

一 次の文の _____ の言葉は、どの言葉
葉をくわしくしているでしょうか。く
わしくしている言葉の横に線を引き
ましょう。

① 小学校5年生の 兄が いる。

② 青い空に 雲が うかんでいる。

③ わたしは 学校へ 行く。

三 次の文の _____ の言葉をくわし
くする言葉をあとのAからDの中から
選び、 に記号を書きましょう。

① 枝に とまった 鳥が、
飛び立つ。

C 木の ☒ A 白い B とつ然
D ひっそりと

二 次の文の _____ の言葉を、くわし
くしている言葉の横に線を引きまし
よう。

② 春の 遠足は
登ることに 決まった。

A あたたかい B すぐに
☒ C 高尾山へ D 今年の

① 一郎は すいすいと 泳いだ。

③ 家では 白い 犬と

② 二組の よしのさんは 足が速
い。

黒い 犬を かつている。

A 元気に ☒ B となりの
C 来週の D ころころ

③ ぼくは 新しい 消しゴムを
買ってもらった。

国語 十四―一	第三学年及び第四学年の内容 「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」	名前	年 組 番
------------	---	----	-------

つぎ ぶんしょう
次の文章を読み、あとの問題に答えましょう。

ひでお きんじょ
英夫の家の近所には、小さな町工場がならんでいました。英夫は、しよく人さんの作業さぎょうを見るのが好きで、学校から帰るとよく町工場に行きました。

あそ だいす ま あいで と
また、英夫はベーゴマ遊びが大好きでした。負けてしまうと相手にベーゴマを取られてしまうので、なんとしても強いベーゴマを作ろうと必死ひっしでした。

くわ
ある日、英夫は、ベーゴマを強くするために、しよく人さんから材料ざいりょうを分けてもらい、重くおもしようと手を加えました。

ため
(よし、試してみよう。)

ごろう
そう思って遊びに出ようとしたとき、三げんとなりの五郎が家をたずねてきました。五郎は、体が弱くて学校を休みがちな子でした。

べんきょう
学校に行くことができないため、英夫に勉強を教えてほしかったのです。

※東京都道徳教育教材集小学校三・四年生版「心しなやかに」の
「あの日をさかいに ―糸川 英夫―」より

とうじょう
① だれが登場していますか。(英夫)(五郎)

② どこでの話ですか。(英夫の家)

ひっし
③ 英夫は何を作ろうと必死でしたか。(ベーゴマ)

④ 五郎はなぜ英夫をたずねてきたのですか。
(英夫に勉強を教えてもらうため)

国語 十五―一		第三学年及び第四学年の内容 指示語		名前	年	組	番	とく 取り組んだ日 月 日	
------------	--	----------------------	--	----	---	---	---	---------------------	--

つぎ ぶんしょう もんだい
次の文章を読み、あとの問題に答えましょう。

その花の花びらに手をふれたまま、くき、そして地面へと目をうつしたとき、富
たろう
太郎はあることに気がつきました。

（そうか、小さな草でも、大きな草でも、みんな同じつくりになっているんだ。

花、くき、葉、根、―。

今までたくさん草を見てきたけれど、みんなそうだ。）

そのことに気がついた富太郎の心は大きく高鳴りました。

※東京都道徳教育教材集小学校三・四年生版「心しなやかに」の

「植物の不思議にひかれて ― 牧野 富太郎―」より

もんだい
問題 「そのこと」とはどのようなことですか。

小さな草でも、大きな草でも、みんな同じつくりになっていること。

国語 十六―一		第三学年及び第四学年の内容 つなぎ言葉		名前 年 組 番		取り組んだ日 月 日
------------	--	------------------------	--	-------------------	--	------------------

一 次の に「だから」「しかし」のうち、どちらかあてはまるつ
なぎ言葉 ことば を書き入れましょう。

① 毎朝、逆上 まいあさ さかあ がりの練習 れんしゅう をした。 1 **だから** できるようになった。

② とてものがかわいた。 2 **しかし** 冷蔵庫 れいぞうこ に飲み物 の もの がなかった。

二 次の に入るつなぎ言葉 ことば を、あとの1から4の中から一つ選 えら ん
で、その番号 ばんごう を書きましょう。

① デザートに、イチゴ、メロン、 3 **1** ブドウが出た。

- | | | | |
|---|------|---|------|
| 1 | そして | 2 | それとも |
| 3 | なぜなら | 4 | それで |

② よしのさんは、算数 さんすう が得意 とくい です。 4 **1** 体育 たいいく も得意 とくい です。

- | | | | |
|---|------|---|------|
| 1 | それに | 2 | だから |
| 3 | なぜなら | 4 | ところで |

③ Tシャツの色は緑 みどり がよいですか。 5 **3** 紫 むらさき がよいですか。

- | | | | |
|---|------|---|-----|
| 1 | そして | 2 | だから |
| 3 | それとも | 4 | それに |

次のローマ字をひらがなで表しましょう。

① moyashi (もやし)

② natsumikan (なつみかん)

③ rakkasei (らっかせい)

④ suika (すいか)

⑤ kon'ya (こんや)

⑥ nichiyôbi (にちようび)

⑦ sansû (さんすう)

⑧ Harajuku (はらじゅく)

⑨ Koganei-shi (こがねいし)

⑩ Negishi Seiko (ねぎし せいこ)

次の言葉をローマ字で表しましょう。

① しか

shika

② きんぎょ

kingyo

③ らっこ

rakko

④ しまうま

shimauma

⑤ ぜんいん
全員

Zen'in

⑥ えどがわく
江戸川区

Edogawa-ku

⑦ きんたろう

Kintarô

⑧ とうきょう

Tôkyô

⑨ なつみかん

natsumikan

⑩ おかし

okashi

1 次の漢字の部首（濃い部分）の名前を（ ）の中に書きましょう。

① 木 (きへん)

② 頁 (おおがい)

③ 艸 (くさかんむり)

2 次の漢字の部首（濃い部分）の画数を（ ）の中に書きましょう。

① 卩 (3画)

② 夂 (6画)

③ 口 (3画)

3 次の漢字の部首の部分を線で囲み、部首の名前を（ ）の中に書きましょう。

① 花 (くさかんむり)

② 想 (こころ)

③ 進 (しん)

4 次の文の□にふさわしい部首を書きましょう。

① かいちゅう電とうの電池をいれかえる。

② 今、何時ですか。

③ 材料を買う。